

## 北川ダム建設事業地域別意見交換会 議事概要

事 項	安曇川地区1地域別意見交換会	参加者	構成員：上古賀区長 下古賀区長 長尾区長 南古賀区長 安曇川沿岸土地改良区理事長 廣瀬漁協組合長 (構成員計6名) 一般傍聴：5名 高島市・県関係者
日 時	平成23年11月20日(日) 10:00～11:45	場 所	安曇川ふれあいセンター 2階カルチャールーム
内 容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 開催にあたって 美濃部局長</li> <li>2. 開会</li> <li>3. 議事 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 資料説明(事務局説明) <ol style="list-style-type: none"> <li>①今までの「検討の場」での意見および個別意見聴取の結果について</li> <li>②パブリックコメントの結果について</li> <li>③高島市からの申入れ内容について</li> <li>④提示した3案のうち最も優位とした河道改修先行案の概要について</li> <li>⑤今後のスケジュールについて</li> </ol> </li> <li>2) 意見交換会</li> </ol> </li> <li>4. 閉会</li> </ol>		
資 料	資料-1 北川ダム「検討の場」の検討結果(パブリックコメント資料) 資料-2 パブリックコメントの結果について 資料-3 高島市申入れについて 資料-4 河道改修案・維持管理案 資料-5 北川ダム検証のスケジュール		

### 1. 開催にあたって

○美濃部局長あいさつ。

### 2. 開会

○配付資料の確認。

○事務局紹介(自己紹介)

### 3. 議事

#### 1) 資料説明

①今までの「検討の場」での意見および個別意見聴取の結果について

- ②パブリックコメントの結果について
- ③高島市からの申入れ内容について
- ④提示した3案のうち最も優位とした河道改修先行案の概要について
- ⑤今後のスケジュールについて

## 2) 意見交換会

- 説明内容について、意見交換を行った。

### 【委員からの主な意見と当局の回答】

#### 委員)

- ・ ダムに反対。なぜかという支流、それは麻生川、北川、他に針畑川があるが、その水量が全くわかっていない。
- ・ 今年も何度か台風があったが、その時の水量なんてしれている。麻生川なんて、そんなに水の量は上がっていない。
- ・ 安全・安心というなら、安曇川の本流にダムができるのであれば、私は反対しない。けど、あの北川と麻生川にダムができることに関しては、本当に反対。安全・安心につながらない。はっきり言って、金を使うだけ。
- ・ ダムを造ってほしい、推進してほしいという人がいるようだが、本当に支流の水量を知っておられるのかなと思う。そういうことを説明してあげたら、本当に無駄だということがわかると思うが。
- ・ ここにも書いてあるように、昭和28年の水害、あの時の川幅と今の川幅では全然違うし、水量で言ったら、今の水量のほうが多いと思う。昔の川だったら、こないだの台風でも完全に堤防は決壊していると思う。
- ・ 安全・安心を言うのであれば、河道改修云々より、先に逃げ道を確保して、逃げた方が賢い。物なんて、流されてもまた作れる。人間、命さえあれば。
- ・ 避難場所の確保ができるかどうか。安曇川の下流のほうであれば、どこに避難するのか。安全・安全を言うなら、そういう避難場所を確保すべきだと思う。

#### 事務局)

- ・ 北川ダムの効果については、「検討の場」でも申し上げたのですが、安曇川では常安橋を基準に、約300km<sup>2</sup>の流域面積があって、今の北川第一ダムを考えているところは、23km<sup>2</sup>ぐらいの流域を持っている。単純に言うと、8%分位しか効かないということになる。
- ・ 今回の9月の雨でも、確かに本流の葛川の方にはたくさん雨が降った。針畑川の方にもたくさん雨が降ったが、麻生川にはあまり大きな雨がなかった。
- ・ 結果的には常安橋で1,000 m<sup>3</sup>/sほどの水量で、水防団には出動の準備をしていたけどという水位は超えたが、避難勧告の目安としている水位までは上がらなかった。  
高水敷にはのるぐらいの洪水がでたということである。
- ・ もう一点、今県としては、河道改修なりダムというハード対策をやっているが、併せて、いざというときに逃げる算段をどうするかということで、「地先の安全

度マップ」という、皆さんお住まいのところがどのような水害の危険をはらんでいるのか示す地図を県として作らせていただいて、高島市に提供させていただき、洪水ハザードマップという形で作っていただいています。

- ・ さらに、県では詳細な検討をやっており、「地先の安全度」の公表の準備をしているところである。施設だけの対応というのは、やはり限界があるので、いざという時には速やかに安全な場所に逃げていただくということを考えていただくため、しっかりした情報を我々も伝えたいと準備もしている。

#### 委員)

- ・ 洪水なら高台に逃げれば良いと言うが、今は山に逃げても山が土砂崩れで危ない。逃げるための高台、山の整備、安全に逃げられるところが必要ではないか。
- ・ 我々が住んでいるところで、例えば川を渡って逃げるとしても、洪水なら橋は流れる、結局どこに逃げるか、それなら裏山に逃げるのか、それでは裏山が崩れる、そんなことで、本当に安全な場所はどこかと。うちでは小学校が避難場所だが、大水が出て堤防が決壊したら水が来る。堤防の高さと変わらないから。
- ・ 下流の方はどこに逃げるのか。結局、逃げ道が先決になるのでは。
- ・ 河道改修も有難いが、河川の氾濫とかを言うのであれば、下流の人の逃げ道を早く確保しておかないと。水は一気に来るのだから。その一気に来るときに「今、避難してください」と言われても、もう手遅れになる。
- ・ 兵庫県などでも皆そうだった。避難する途中で亡くなっておられる。絶対にここであれば避難できるという道筋を、県も市の方もはっきりと言ってもらわないと。ゲリラ豪雨はどんどん大きくなってくるのは分かっている。10年20年先には、もっとひどくなると思う。
- ・ 本当に安全に逃げられる避難場所を確保してもらいたい。ダムに金使う必要はない。

#### 事務局)

- ・ ありがとうございます。

#### 委員)

- ・ 河道改修に10年かけて20億円を使うと、予算的に一年間に2億円を使うんだと。
- ・ 一年間に5億円ほどお金を投資して河川改修をするんだ、それでことが起こったら、その対応をするというやり方なら分かるが、たった2億円だ。
- ・ 四百何十億のダムの代わりに行う河道改修で、何で年間2億円なのか。もっと投資できないのか。
- ・ 昭和48年に調査を実施してもう平成23年。まだこれから10年、それから朽木をやってもう10年かかる。私たちはもういないかもしれない。
- ・ そんな事業を計画するよりも、今、目先で何億と予算取りをして、これで工事をやっていくというやり方はできないものかと思う。

#### 事務局)

- ・ たくさんお金があればできるが、ひとつの川に年間2億円注ぎ込むというのは、

県の事業としては大変な額である。

委員)

- ・ わかっている。でもダムならもっとかかるでしょう？
- ・ 今までダムが必要だとして調査されて、県が推進してきた。それが今の時期になって、やっぱりダムはいらぬ、10年かけて約20億円投資するから我慢しろと。私は今の県が言われたのとはちょっと食い違っていると思う。

事務局)

- ・ 確かに、今まで約400億円以上かかるダム事業と河川事業をやっていくということで、地元の皆さんに説明をしながら進めて来た。公共事業がどんどん右肩上がりで予算が付く時なら、もう少し早く進められたかも知れない。
- ・ 今、公共事業の予算が縮減される中で、一番効率的なやり方を、この際考え直すということで見つめ直したのが今回の検証である。
- ・ もともと第一ダムをやり、第二ダムをやり、河道改修をやるうとしていたわけで、その中で一番効率的で早く安全度を上げる方策として、河道改修を先行する案を今回一番優位な案として提案させていただいた。

委員)

- ・ わかりました。
- ・ それでは、今言われたとおり、資料で区間が示されているが、この10年間でやっていく20億円をどのように計算して出されたのか説明願いたい。
- ・ また、下古賀から荒川まで31億円ですか、それも10年間でどういう計画でこれをたたき台として捻出されているのか、そういうことも説明願わないと。資料で言われたとおり進んでいくが、会議はするが結果の報告はひとつもない。
- ・ 前は河道改修を50何億円ですと説明されたただけだったが、今回はこの10年で20億円をどういうふうに分けてくれるのか、そういう説明がない。

事務局)

- ・ 大ざっぱな積算根拠ですが、51億円の内容は、土砂の掘削、護岸工、樹木伐採などあるが、トータルで申しますと、土砂の掘削土量が約60万m<sup>3</sup>、護岸工が約3万2000m<sup>2</sup>、木を切る面積が約59万m<sup>2</sup>、あと測量とか調査がある。
- ・ 土砂の掘削で約7割のお金がいると考えている。護岸工が8億円で、約16%、先ほどお見せしましたが、赤く塗っているところの掘削土量、あと護岸工、そして掘削するところには木があるので木を切ったりするお金、それを合わせて51億円というように試算している。
- ・ 先ほど横断図でお見せしました部分を掘削。その掘削ボリュームをはじいて、それに単価を掛けて事業費を出している。

委員)

- ・ それで全体的にだいたいの目安というか、想定はできているということか。

事務局)

- ・ 今の段階での計画はできている。

委員)

- ・ それで、下流から上がってくると、そういう説明でよいのか。

事務局)

- ・ はい。

委員)

- ・ 下流を掘削しても、上流からまた流れてくるのはわかっているだろう。
- ・ なぜそうなるかという、谷川の山が皆崩れているから、その土砂がどんどん流れてきている。谷という谷に入って行かないと分からないと思うが、どこの谷も全部えぐれている。結局、そこから流木が流れてきて、それが河川をえぐっていく。それがどこかで止まって流れを変えてえぐる。結局、堆積物を取るとかでなく、山、いわゆる元を早く直さない。これではイタチごっこ。掘削しても何にもならない。多分、台風が2、3個きたら元の堆積と同じになると思う。
- ・ 河床低下は進んでいく、昔から同じことの繰り返し。うちのほうでも3mほどの河床低下で、昔は自転車でトロトロと下りられるような川だったが、今ではひっくり返ってしまう。
- ・ 杉の植林が多すぎる。あれを根の張る木で植林して土砂を止めたらいらん工事をしなくて済む。木で土砂は止まる。
- ・ いくら構造物を造っても、いくら機械を入れて堆積物を取っても、本当にイタチごっこ。何年経っても、10年経っても20年経っても、逆にひどくなるのではないか。
- ・ 私は、避難場所さえできればいいと思っている。
- ・ 河道改修云々とは違う。その金があるのであれば、山の元を正してほしい。山に入ったら分かるけど、どれだけひどいか。そこまで荒れている。このまま放っておいたら、10年先、完全に山が死んでしまう。山が死んだらどうなるか、ダム作ろうが何しようが、絶対に追いつかない。今、もうそういう状態になりつつある。そこを正してほしい。下流ばかりさわっても何にもならないと思う。
- ・ 一度、ダム推進派の人とか、山に入ってくれと言いたい。山がどんなにひどい荒れ様になっているか見てほしい。今の人は山にはほとんど行かないだろうから、分からないと思う。
- ・ 昔の田んぼだったところに、全部杉が植えられている。大水出たら全部えぐって、その50年、60年の大木が皆流れてくる。それが川をせき止めて、流れを変えて、山をえぐって、そして潰している。朽木あたりが一番危ないと思う。下流にはそんな山がないからよいが上流には山がある。その山が潰れたら、奈良のようなことになる。

事務局)

- ・ 実は、昨日の朽木の意見交換会でも森林保全の重要性を主張していただいた方がおられた。
- ・ 安曇川は花折れ断層沿いに川が走っている関係で、斜面がかなり荒れた状態で、大津土木の砂防事業というのは、八つの土木事務所の中で、一番たくさん事業費

を使っている。

- ・山がたくさん崩れてきているので、それだけ対策が必要になる。林務のほうでも取り組みをしているが今年の台風の時も葛川のほうで一時土砂災害の恐れがあり、避難していただいたということもあった。
- ・我々としても砂防事業なり、林務もこの安曇川の上流域では重点的に対策を進めているところである。
- ・最近でも、12号台風で荒川で斜面が崩壊して、合同井堰に流木が溜まってしまったということがあり、高島土木で対策をさせていただいた。確かに上流のほうの保全というのは大変大事なことだと思っている。
- ・ただ、併せて川も堆積しているままで放っておく訳にはいかない。洪水が来たときにはそれが障害になって堤防を乗り越えるということになれば大変なことになるため、我々としては維持管理もしっかりしていきたい。
- ・当面、天井川の区間は特に破堤したときの被害が心配なので、この間は常に約2,100m<sup>3</sup>/sという流量が安全に流れるような対策はしっかりしていきたい。併せて上流のほうも取り組みを進めていきたいと思っている。

#### 委員)

- ・これだけの掘削をされて、河床低下が収まるのか。
- ・障害物を川に置くとか、そういうことは無しですか。私たちが心配しているのは、饗庭野は今、一切樹木が立っていない。上古賀区内にもたくさん砂防ダムがあるが既に満杯の状態の砂防ダムが一杯ある。
- ・だから、私たちが昔見ていたような、きれいなちょっと濁ったような水ではなく、真っ赤な水が流れてくる状態が何回かあった。それだけ土砂が流れているということ。ましてや、両台橋の下を見てもらったらわかるように、粘土がこってりと出ている。私たちが小さい頃は、あんなもの見たことなかった。
- ・今は同じところを流れているから、そこばかりが掘れていくという状態があるのではないか。掘削をされ、広く水を流すと言うが、それを導くような方法があるのでしたら、それも直るのかもしれませんが、今の状態で掘削だけされたら同じところを流れている限りは、いくらでも底が下がっていくばかりだと思う。
- ・良い方法があるなら一緒に併せてやってほしい。ただ、それが堤防決壊を導くような弊害のあるものでは駄目だと思うが。
- ・堤防も、確かに昔の堤防よりもしっかりしたものになっており大丈夫だとは思いますが、堤防自身も上に道路を通してもらうと、また活用もできる。幅広くとっていただくのと、河床低下が少なくなるような対策を考えていただきたいと思う。

#### 事務局)

- ・河床低下対策というのは、なかなか自然の川では難しいと思うが、少しずつさわりながら、様子を見ながら、ということになると思う。
- ・漁協さんは河の状態をよくご存じかと思うので、教えていただきながらやっていきたい。

委員)

- ・ 10月頃に県のほうに行きまして、写真を持参してお伺いさせていただきました。所長、見ていただきましたか。

事務局)

- ・ はい。

委員)

- ・ 今も申されていまして、蛇籠が全て壊れている状態で、堤防がえぐれ、そこに三重生のかんがい用水がある。
- ・ そこが水を取り入れるために川を堰き止めて取っているが、その反対側の堤防が崩れ欠損している。市のほうにも見に来てもらいお願いをした。早急に手当をしないと、えらいことになるということで見て帰っていただいた次第。
- ・ 北川ダムそのものは反対といえば反対。護岸を一日も早くしてほしい。

事務局)

- ・ 日々管理の予算は、もともと非常に少ない中で、これまでは生命・財産に直結するところしかできなかつたというのが本当のところである。
- ・ 今年度からは、しっかり維持管理をしていかなければならないということで、相当な予算の増額をして進めているので、できるだけ早くできるように頑張っていく。

委員)

- ・ 話が出ているように、上流部の河床が下がっており、改良区は途中で用水を取っているの、用水の確保で相当苦労している。
- ・ そのあたりを今後、防火用水や生活用水にも関係があるので、市のほうとも相談しながら、お願いにあがらなければならないと思っている。
- ・ 上流部で下がると、取水場も欠けるといことも起こるし、何らかの対策が必要である。約7.5kmのところまで河道を掘削するようになっており、高いところを取ることだが、当然そうだと思う。しかし、川は常に変化しているので、高いところを取ってもまた深掘れするのではと思う。
- ・ 河川全体の計画として、何らかのこれ以上下がらない対策を今後上流部で講じてほしいと思う。

事務局)

- ・ 漁協さんや区長さんもおっしゃっておられるように、山からの流出土砂がひどいところもあり、砂防堰堤が満杯になって、もう土砂を止めることができないといったところもある。
- ・ 砂防の考え方は、これまで土砂を止めなければならないということで、今までクローズと言って土砂を止める堰堤を作っていたが、やはり土砂の流出も図ってバランスを取っていかなければならないということで、スリットを入れたりして安曇川に土砂を流せるような堰堤も考えている。

- ・ 土砂収支（バランス）は本当に難しい。合同井堰から下はヌリ盤が出ている状況でもあり、対症療法的な対策では繰り返しになるので、何か皆さんの知恵を借りながら、どういう対策ができるのか、考えて行きたいと思っている。

委員)

- ・ 一番良い例として、上荒川の橋の上流に低い砂防堰堤がある。昔から、あそこからは川の格好は全く変わっていない。そこから下は全部変わっている。
- ・ ただ、朽木地区に関しては、高岩の関電のダムがあるので、あそこで仕方なしに堆積する。あそこも山を直さない限り、3年から4年で絶対堆積する。土砂が流れてこないような対策をしなければ、あれも3年から4年で土砂を取らなければならない。

事務局)

- ・ ありがとうございます。

委員)

- ・ 皆の意見どおりで、これとってないが、両台橋の近辺の整備をお願いしたい。
- ・ あそこがネックで、今回の台風で、えぐれが何カ所かできている。河川の整備をするのであれば、早いこと実施してほしい。

事務局)

- ・ ありがとうございます。

事務局)

- ・ 昨日、新旭で意見交換会をしましたが、あそこは地下水利用が発達しているということで、そのあたりの影響を随分心配される声を聞いた。
- ・ 我々も地下水利用への影響は十分配慮して、さらに地下水調査をやり、今後の掘削のやり方ももう少し具体的に検討した上でかかりたいと思っている。
- ・ 単純に今お示した図面でやるということではなく、もう少し丁寧な地下水調査もやりながら、地下水利用に支障のない形での掘削を進めていきたい。

委員)

- ・ 今、新旭で地下水を云々と言っているが、その地下水がどちらからどちらに流れている等は、分かっているのか。

事務局)

- ・ 机上でのシミュレーションはやっているが、扇状地地形なので、川からすぐ横にということではなくて、上流から来ているというようなことだと思う。なかなか厳密な地下水脈の解明までは至っていない。

委員)

- ・ 水脈なんて、安曇川水系の水ではないだろう。安曇川水系は、たいがいどこかで取り入れている。

委員)



- ・ いや、新旭の上水道の水源地が、五十川の人家の東側にあるが、その水の水質を見ると安曇川の水と一緒にである。

委員)

- ・ 浅いのだろう。

委員)

- ・ 浅い。浅井戸。5m から 7m。

委員)

- ・ 今、言っている新旭の下のほうは、水質が違うだろう。

事務局)

- ・ 両方ある。伏流水と本当の地下水が被圧して噴き出しているところと、二種類あるかと思う。なかなかそのあたりの厳密な解明というのは難しい。
- ・ 少なくとも安曇川から紛れもなく浸透水も供給されているので、そのあたりも十分配慮しながら掘削する。昨日も随分、今の五十川のこともお話があって、「旧の河道が扇状地ですから、昔はもっとあっち行ったりこっち行ったりして川が暴れていたと思いますが、その旧の河道がいっぱい残っているので、そのあたりの歴史的な経過も十分勉強した上でやってください。」という意見も頂戴した。

委員)

- ・ 今年また 30cm、40cm ぐらい川底が下がったのちがうかな。
- ・ 両台橋の上は、昔はもっと北の方にいていた。そこにはずっと木が生えていた。台風の一つ目でその株が見えていた。それで、3 個目が来たときに、その株が皆流れた。流れたということは、えぐってしまっているから、それだけ下がったということ。粘土層をぶち抜いて、またどんどん下がっていく。両台橋が一番ひどいところではないか。あれは完全に粘土層になっている。あれはかなりえぐっている。あれを何とかしなかったら、もう止まらないと思う。

委員)

- ・ ここ何年かでひどくなっている。

委員)

- ・ あの粘土層をぶち破れば、今度はちょっとしたら砂利系になる。そうしたら今度は早い。今度は赤い粘土になる。だいたい分かっているのだが。

事務局)

- ・ あのヌリ盤が出ているのは、何年頃からですか。

委員)

- ・ 出始めたのは、あの合同井堰下流の床止工の工事をしてから後。それからひどくなってきた。

事務局)

- ・ あれは平成 11 年度。

委員)

- ・ それまででも下がっているが、だいたい落差が大きすぎる。低ければどうもない

が、高いから流れをつけるので、水が出たときの波立はすごい。

- ・ あの波立を作ったら、波立がかなり下までいく。そこらへんでおさまるものではない。それまでは潜っていても、粘土が見えていたのは南古賀ぐらい。南古賀は一時えぐれてひどくなったから工事をしていて。それから後は、川全体で粘土が見えていたところは見たことがなかった。
- ・ ただ、今は朽木もかなり河床低下している。朽木も粘土が見えている。朽木の粘土もひどい。船橋だけでなく、その上の岩瀬も粘土が見えている。もう相対的に全部粘土が見えている。あれだけ粘土が見えているということは、石が流れているということだから、あれは止められないだろう。すぐなら止められるかもしれないけど、ここ何年かで多分もっとひどくなるだろう。
- ・ 結局、言われるように堆積物を上げたことが原因。ここ十年余り前から。その頃から岩瀬の上、古川から下流でずっと土砂を上げたから、砂利採取させたから、あれから全部川が狂ってきている。それからずっと朽木は河床低下が進んでいる。
- ・ さわっていない上流はどうかというと、変わっていない。土砂は流れてきているけど、川の流れて変わっているのかというと変わっていない。
- ・ 上流の葛川まで行くと、山の斜面が急だから、岩盤が削れてどんどん取って来ているから、川の流れる的に言っても、葛川のほうはそんなに変わっていない。大きな砂防ダム代わりになる関電のダムもあるから、あそこらでかなり止まるだろう。
- ・ 結局、一番きついのは朽木の砂利採取。あれが何年か続けてずっとやってきたからあれが応えている。それで、今度また宮前坊で砂利採取するらしいけど、あれを取っても、3年で元に戻るだろう。

事務局)

- ・ そうです。

委員)

- ・ それをまた取る。繰り返してである。

事務局)

- ・ 場所が少し、下流側に移動していますが。

委員)

- ・ 変わらない。あそこ全体全部取った。同じところや。要望あったと思うが3年か、4年であんなもんやっていたら何もならない。

事務局)

- ・ いろいろご意見いただきました。予定時間は後30分ほどありますが。

委員)

- ・ 終わりました。

事務局)

今日、ご意見いただきましたこと、簡単に、おさらいさせていただきます。

#### ◆ 本日の仮のまとめ

- ① 基本的に北川第1ダムの効果が疑わしいこともあり、ダムには基本的に反対

- ② 洪水の安全・安心を確保するには、逃げる対策をしっかりやるべき
- ③ 河道改修は重点的な投資が必要
- ④ 川の中の対策だけでなく、基本的に森林の保全が大事
- ⑤ 流域の河川全体の土砂の管理、適正な土砂の管理が必要
- ⑥ 河床低下の有効な対策が必要

